

8 市町村で 出合いを応援しています

弘前圏域を構成する弘前市、黒石市、平川市、藤崎町、板柳町、大鰐町、田舎館村、西目屋村の8市町村では、成婚の促進や定住人口の増加を目指し、圏域全体での婚活支援として多様な出会いの場を創出しています。

ひろさき広域 出愛サポートセンター {登録無料・完全予約制}

会員のプロフィール情報を見て、会いたい相手を探すことができます。お見合い時には「出愛サポーター」が立ち会いますので、初対面の相手と話すのが不安な人も安心です。

- 登録会員数 (令和4年7月時点)
男性 195人 女性 97人
- お見合い実績 686件
- 成婚数 28件(イベントきっかけを含む)

【9月の休日登録会】

▼とき 9月25日(日)、正午～午後4時
▼ところ ヒロコ(駅前町)3階多世代交流室A

■問い合わせ先 ひろさき
広域出愛サポートセンター
(ヒロコ3階、☎35-1123、
Eメール h-deai@city.hirosaki.lg.jp)



婚活イベント

ひろさき広域婚活支援事業実行委員会では、弘前圏域市町村在住の人を対象とした婚活イベントを開催しています。

【9月のイベント】

里山サイクリング&フィッシングツアー

- ▼とき 9月25日(日)、午前9時15分～午後3時
- ▼ところ 大鰐町島田地区
- ▼参加料 男性=3,500円/女性=3,000円
- ▼対象 弘前圏域市町村に在住または将来住む意思のある20～39歳の独身の人
- ▼募集人数 男女各7人
- ▼申込期限 9月16日(金)、正午
- 問い合わせ・申込先 クリエイティブアート101デザインズ(☎78-5090、Eメール cal01@alpha.ocn.ne.jp)



▲詳しくはQRコードから

青森の新しい出会いのかたち。あ あおもりマッチングシステム「AIであう」

県が運営するあおもり出会いサポートセンターでは、結婚を希望する男女の出会いを支援するため、AIを活用したマッチングシステムを10月から開始します。9月30日(金)までにWeb登録をすると利用登録料がキャンペーン価格になりますので、ぜひこの機会にご登録ください。



▲詳しくはQRコードから

利用登録料(弘前市在住※)

1万2,000円(2年間)

↓ キャンペーン価格
期間限定 5,000円(2年間)

※お住まいの市町村によって利用登録料が異なります。

■問い合わせ先 あおもり出会いサポートセンター(☎017-721-1250、Eメール info@adsc.jp)

連載 むっちゃんの 教えて文化財!

■問い合わせ先 文化財課
(☎82-1642)

第4回 祭の様子を華麗に伝える 弘前八幡宮祭礼図巻

最近新たに指定された文化財や、話題になっている文化財の魅力を毎月お伝えします!



案内人・むっちゃん
文化財行政に携わって12年!学芸員資格を持つスペシャリスト(?)職員。ヤクルトスワローズの「つば九郎」のような存在になりたいとか。



内容は全巻インターネットで見られます!

内容は全巻インターネットで見られます!
「おくゆかしき津軽の古典籍」で検索♪

絵巻物は全部つなぐと122mにもなる大作!弘前藩お抱え絵師の今村養淳が描いたと伝えられています。



次回「弘前藩に伝わった剣術 當田流剣術」

今回は「紙本著色弘前八幡宮祭礼図巻」という絵巻物(全5巻)です。



弘前八幡宮祭礼は、弘前藩4代藩主・信政の時代から明治初年まで続いた弘前城下最大のおまつり。

各町会から山車が出て最後に御神輿が練り歩くというもので歴代藩主も高覧していました。

ねぶたにも影響を与えたと
言われています

山車は山車展示館、御神輿は弘前八幡宮で現在保存されています



Hirosaki Art Times

ヒロサキ・アート・タイムズ #18

弘前れんが倉庫美術館に関する情報を連載します。

■問い合わせ先 弘前れんが倉庫美術館(吉野町、☎32-8950、https://www.hirosaki-moca.jp/)

2022年度【秋冬プログラム】

「もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか?」 奈良美智展弘前 2002-2006 ドキュメント展

▼とき 9月17日(土)～令和5年3月21日(火・祝)の午前9時～午後5時
※火曜日と年末年始(12月26日～1月1日)は休み、ただし3月21日は開館。

本展では、美術館になる前の煉瓦倉庫で開催された、市出身の現代美術家・奈良美智による三度の展覧会の軌跡を、さまざまな資料、写真や映像で振り返ります。

タイトル「もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか?」は、当時の煉瓦倉庫のオーナー・吉井千代子さん(元吉井酒造社長)が奈良の作品に強く惹かれ、自分の倉庫で展示をしたいとギャラリーに問い合わせたというエピソードにちなんでいます。この一本の電話が、吉井と奈良の出会いにつながり、煉瓦倉庫での奈良美智展が実現しました。

弘前での最初の奈良美智展から20年を迎える本年、煉瓦倉庫と地域との関係性において重要な意味を持つ、この三度の展覧会にあらためて光をあてます。当時の印刷物やグッズ、記録映像の資料、展覧会準備の様子や展示風景を撮影した写真家の永野雅子と細川葉子による写真で構成します。また、過去に出展された奈良美智の作品も一部展示します。



▲「YOSHITOMO NARA + graf A to Z」会場外観(2006年/撮影…細川葉子)